

海運の重要性を学校教育の場で
～越谷市の学校で出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、出前授業への協力等に取り組んでおります。

12 月 2 日（火）に、埼玉県越谷市立桜井南小学校の 5 年生 84 名を対象に、海運に関する出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。

授業冒頭では、海に囲まれ資源の少ない日本は、エネルギーや工業製品の原材料、食料品の多くを輸入しており、日本の貿易量の 99%以上を海運が担っていることについて、クイズを交えて説明しました。児童からは「ほぼ全部だ!」と驚きの声上がり、日本には海運が欠かせないことを実感してくれた様子でした。

その後、自動車産業との関わりを軸に授業を進め、自動車部品の原材料の多くは海外から船で輸入しており、運ぶものに応じて、ばら積み船、原油タンカー、コンテナ船、LNG 船等、様々な種類の船があることを紹介しました。



自動車船の積載台数クイズで盛り上がる様子



紙いっぱいメモを取る児童たち

完成した自動車を輸出する際は、自動車船で運ぶことによって、効率よく、安全に、大量に運べることを紹介したほか、安価で環境にやさしいという船のメリットを説明しました。

「物流」や「海上輸送」について、これまでの工業の学習と紐づけて説明することで、海運をさらに身近に感じるとともに、その役割と重要性を実感してくれたのではないかと思います。

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。